

効率的な合流式下水道緊急改善計画策定の手引き（案）の概要

本手引きの目的

合流式下水道の改善目標の確実な達成に向けて、今後実施する改善対策について、以下の点を考慮して一層効率的かつ効果的な合流式下水道緊急改善計画を作成し、早期の事業実施を図ることを目的とする。

○対策施設の低コスト化

緊急改善計画を見直すにあたっては、SPIRIT21等の最新技術を用いることで対策施設の低コスト化を図る。

○適切な改善目標の設定

既存施設による対策の効果や、目標設定に用いる降雨の考え方を整理し、適切な改善目標を設定することにより、効率的・効果的な改善計画の策定を行う。

○放流先の水利用状況を考慮した対策の促進

重要影響水域等、未処理放流水により放流先へ大きな影響が予想される水域では、対策の強化を促進する。

本手引きの特徴

○計画策定に当たっての留意事項を整理

効率的・効果的な緊急改善計画の策定のためのポイントを分かりやすく解説。

○計画策定の流れに沿った手引きの構成

○改善対策事例、新技術の概要等、参考資料を充実

新たな緊急改善計画の策定チェックポイントを整理し、フローチャート、およびチェックリストを作成。

新技術導入等のハード対策事例や住民等へのPR・広報等のソフト対策事例を紹介。計画策定に有用な新技術(SPIRIT21)の紹介や関連法令等の参考資料を収録。

新たな緊急改善計画策定の手順

○これまでに実施してきた合流式下水道の改善に係る事業等の評価

これまでに実施されてきた合流改善事業等の評価に必要な観点の整理や、目標の達成状況の評価に必要な指標について紹介。

○放流先の水利用状況の整理および重要影響水域の設定

重要影響水域となる可能性のある水域の条件の確認、および放流先のモニタリング等のソフト対策実施の重要性を整理。

○当面の改善目標の設定

当面の改善目標である「汚濁負荷量の削減」「公衆衛生上の安全確保」「きょう雑物の削減」について、これまでの事業効果や降雨特性を踏まえた目標設定の考え方を分かりやすく解説。

○雨水を「入れない」「送る」「貯める」対策手法の適用の検討

「汚濁負荷量の削減」および「公衆衛生上の安全確保」の目標を達成するための対策手法を「入れない」「送る」「貯める」の3つの機能に分類し、それら機能の特性やメリット、デメリット、効率的となるための前提条件および留意点を整理・解説。

○対策の効率性の確認

対策の効率性を評価するために必要な確認項目や手法を整理。また、第4章には、ケーススタディや比較検討事例を用いて分かりやすく紹介。

○年度計画の策定、合流式下水道緊急改善計画書の作成

実施可能な年度計画作成に向けての留意点を整理。第2.9項では、緊急改善計画書の作成に向けた必要整理事項を解説。